



Press Release (兵庫県での記者会見資料)

プレスリリース

2020年12月1日

国立大学法人 神戸大学

株式会社 イーベック

新型コロナウイルス感染症に対する抗体医薬開発 ～兵庫県から世界へ向けて～

神戸大学大学院医学研究科の森康子教授（臨床ウイルス学）と株式会社イーベック（土井尚人社長）は、兵庫県の全面支援を受けて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する治療効果を持つ抗体医薬の開発に着手します。

ポイント

- ・神戸大学大学院医学研究科附属感染症センターの森康子教授らの研究グループは、兵庫県立加古川医療センターの協力を得て、1) 抗体キットを用いた医療従事者に対する疫学調査、2) 患者における中和抗体とサイトカイン測定による重症化メカニズムの解析——に取り組んできました。
- ・ウイルス増殖を抑える機能（中和能）は患者の重症度によって大きく異なることを解明した。
- ・株式会社イーベックは人由来の抗体を、安全かつ高効率に作成する技術・実績を有しており、産学が協働することで、COVID-19の治療に有用な抗体薬を開発することが可能だと考えている。
- ・神戸大学、兵庫県とイーベックが産官学の連携により、COVID-19治療に有効な治療薬開発を目指したい。

研究・開発のスケジュールと製薬化

兵庫県立加古川医療センターとの共同研究により提供者（COVID-19回復者）のご協力を得て、神戸大学バイオリソースセンターが管理し、神戸大学感染症センターが高い中和活性を持つ検体を選別、得られた血液からイーベックが複数の完全ヒト抗体を作製する。神戸大学がそれらの抗体の中和能を評価することにより最適な抗体を選抜する。有効な抗体が作製できれば、動物実験等を経てエビデンスを取得後、大手製薬企業との共同研究によりワールドワイドでの製薬化を目指す。

用語解説

抗体医薬：病原体の生体への感染や感染後の発症をおさえることを目的とした「抗体」を用いた医薬品。標的となるウイルスなどの抗原に対して特異的に結合するため、副作用の少ない効果的な治療薬として期待されている。既にビリオンダラーを超える売上を記録する製品が相次いでおり、世界の売上金額トップ10の過半数を占めている。抗体医薬（モノクローナル抗体）は、関節リウマチなどの自己免疫疾患や癌などの治療薬として広く使われており、その市場は拡大を続けている。

謝辞

神戸大学では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行早期から井戸敏三知事のご理解の下、兵庫県から多大なご支援を得て、COVID-19 についての研究を行ってきました。兵庫県では大学と県との連携が緊密であり、県立病院群から得た患者検体を用いた研究が直ぐに大学で行えるという利点は、極めて大きいと考えています。これに抗体医薬作製では定評のある株式会社イーベックが参加することによって、兵庫県から世界に向けて成果を発信し、新型コロナウイルスに立ち向かっていきたいと決意しております。

問い合わせ先

< 研究について >

■神戸大学大学院医学研究科

教授 森 康子

E-mail : ymori@med.kobe-u.ac.jp

■株式会社イーベック

社長 土井 尚人

管理本部 加藤 めぐみ

TEL : 011-231-1782

< 報道担当 >

■神戸大学総務部広報課

TEL : 078-803-6678

E-mail : ppr-kouhoushitsu@office.kobe-u.ac.jp